

もがみがわ 情報局

- 第 40・41 号 -

中庭のビワ

改良区の事務所の庭には、様々な樹木が植栽されております。その樹木の中で食用の実をつけるものは、クリ、イチョウ、カリンと数種類あります。その中でも、生食できるものとしてはビワが唯一です。このビワの木は、事務所建物内の中庭に生えており、ぶどうの房のような黄色いつぼみが秋にかけて徐々に膨らみ、



中庭のビワ



雪をまとったビワのつぼみと花

11月から1月にかけて白い花へと変わっていきます。冬の使者といえば、白鳥が代名詞ですが、ビワの花も冬の訪れを告げるものの一つと言えるでしょう。その後、花はビワの実へと成長していき、6月下旬から7月初旬にかけて食べごろを迎えます。しかしながら、ヒトの食べごろは野生の生き物たちの食べごろでもあります。毎年、そろそろ食べごろかなと思った翌日には、ビワの実は種へと姿を変えて地面に落ちている有り様です。



未熟なビワの実



食べごろチョイ前ビワの実

「中庭のビワ、誰も食べられないわ。」

「台無しだ！食べるのを一日千秋で待った白々は！！」

一職員の悲痛な叫びは中庭にこだまします。

毎年悔しい思いをしているので、来年こそは

「中庭のビワ、賞味できたら隠し切れないよ、その喜びは。」



実が種に！なんて日だ！！